

■ 第25回 多摩川流域セミナー

「八景・ハッケン・再発見」みんなの宝 見に行こう！

主催：多摩川流域懇談会

今回のセミナーのテーマは『多摩川の景観』です。多摩川は、万葉集にも詠まれ古くから人々に愛され、四季を通じたみなさんの憩いの場所として親しまれています。昭和59年、「あなたが選ぶ多摩川八景」に寄せられた投票を参考に“多摩川八景”は選定されました。それは、選りすぐりの美しい多摩川の景観であり、いわば多摩川らしさの代表でもあります。本セミナーで、多摩川での最近の取り組みと合わせて、多摩川の景観を再確認し、多摩川の素晴らしさの再発見をしませんか？

● 日時

・・・平成19年7月1日(日)13:00～17:00

● プログラム

◇ 13:00 開会のことば

長島 保(多摩川流域ネットワーク代表)

多摩川流域懇談会会長 挨拶

高橋 裕(多摩川流域懇談会 会長)

◇ 13:05 ポスターセッション

- (1) 多摩川八景について
- (2) 減災に向けた情報提供について
- (3) 水流実態解明プロジェクトについて
- (4) 川崎市多摩川プランについて

◇ 14:25 話題提供

- ・「野川と源流と景観を考える～多摩川水流実態調査に取り組んで～」

神谷 博(法政大学講師)

- ・「写真で見る美しき多摩川」

鏑山 英次(写真家)

- ・「多摩川の景観形成の考え方」

裏川 雅之(京浜河川事務所河川環境課)

◇ 15:35 ディスカッション

◇ 16:55 閉会のことば

鈴木 研司(京浜河川事務所長)

多摩川流域懇談会主催
第25回多摩川流域セミナー
「八景・ハッケン・再発見」みんなの宝 見に行こう！
平成19年7月1日(日) 13:00～17:00
場所：ニッポン住友ビル 12-45 基会
多摩川流域懇談会主催
多摩川流域ネットワーク代表
多摩川流域懇談会会長
高橋 裕(多摩川流域懇談会 会長)

● 13:00 開会のことば
長島 保(多摩川流域ネットワーク代表)
多摩川流域懇談会会長 挨拶
高橋 裕(多摩川流域懇談会 会長)

● 13:05 ポスターセッション
(1) 多摩川八景について
(2) 減災に向けた情報提供について
(3) 水流実態解明プロジェクトについて
(4) 川崎市多摩川プランについて

● 14:25 話題提供
・「野川と源流と景観を考える～多摩川水流実態調査に取り組んで～」
神谷 博(法政大学講師)
・「写真で見る美しき多摩川」
鏑山 英次(写真家)
・「多摩川の景観形成の考え方」
裏川 雅之(京浜河川事務所河川環境課)

● 15:35 ディスカッション
● 16:55 閉会のことば
鈴木 研司(京浜河川事務所長)

● 問い合わせ先

・・・ 多摩川流域懇談会事務局 NPO法人多摩川エコミュージアム

TEL.FAX.044-900-8386  <http://www.seseragikan.com>  office@seseragikan.com

■ 第25回 多摩川流域セミナー 開催報告

「八景・ハッケン・再発見」みんなの宝 見に行こう！

主催：多摩川流域懇談会

平成19年7月1日(日)、「第25回多摩川流域セミナー」を行いました。

今回は、『「八景・ハッケン・再発見」みんなの宝 見に行こう！』というテーマのもと、ニヶ領せせらぎ館にて、65名の皆さんにお集まりいただき、取り組みの紹介や活発な議論を行うことができました。



1 開会挨拶

開会のことばは、多摩川流域ネットワーク代表の長島保氏です。
続いて、多摩川流域懇談会会長の高橋裕氏からあいさつがありました。
総合司会は、TBネットの安元順氏です。



2 ポスターセッション

まず、1階の会場でポスターセッションがありました。

テーマは、①多摩川八景について、②減災に向けた情報提供について、③水流実態解明プロジェクトについて、④川崎市多摩川プランについての4つでした。

1つずつのテーマについて、全体に向けて紹介したあと、個々のテーマに分かれて更に詳細な説明と質疑が行われました。

主な質疑内容として、「今回のテーマでなぜ八景をとりあげたのですか」「多摩川の整備目標の洪水流量はどうやって決めたのですか」「多摩川の水の収支はわかっているのですか」「川崎市の多摩川プランは予算上どのようになっているのですか」などの質問がありました。



3 話題提供

今回のセミナーは、多摩川の景観をテーマに、3名のみなさんの発表がありました。

まず、神谷博氏による「野川と源流と景観を考える～多摩川水流実態調査に取り組んで」です。野川の流量回復を目指すには源流を含めた流域での取り組みが重要なこと、「生活景観」を再生していきたいこと、などをお話されました。

次いで、写真家の鰐山英次氏による「写真で見る美しき多摩川」の発表がありました。普段目にするのではない多摩川の表情をたくさん紹介してくださいました。

最後の発表は、京浜河川事務所河川環境課裏川専門員による「多摩川の景観形成の考え方」でした。景観緑三法、各自治体の景観条例事例、国土交通省の取り組みや、多摩川の景観形成に対する今後の取り組みが紹介されました。



4 ディスカッション

参加者全員によるディスカッションは、TBネットの中村文明氏と京浜河川事務所調査課 工藤課長によるコーディネートで進められました。

主な議論の内容として、多摩川台公園から眺めが樹木に遮られることについて、樹木伐採を巡る賛否両論、ホームレス対策について、多摩川八景・50景を今後見直すかどうか、河川整備計画に水質について具体的な目標を上げてほしい、など、活発な議論が行われました。



5 閉会のことば

最後に、京浜河川事務所 鈴木事務所長による閉会挨拶で、第25回多摩川流域セミナーは幕を閉じました。



第25回多摩川流域セミナー ご意見・ご提案

当日いただいたご意見・ご提案です。貴重なご意見・ご提案をありがとうございました。

■ 多摩川の景観について

多摩川の景観形成の考え方において、区間設定の際に分析要素として用いた指標・視点、特に景観生態学の視点がどのように取り入れられているのか？

市民参画のあり方に対する基本方針は、この中でどう位置づけられていくのか？

生き物についての解答で、今後の課題ということでしたが、景観の考え方は地域景観の基盤として位置づける必要があるはず。

しっかりと議論して欲しい。人の生活やかつての文化を昔から未来へつなぐために、住民参画で風景をつくりあげていくために不可欠です。

■ 質問

第25回のセミナーのテーマ、八景の第一番目は「河口」ですが、多摩川全域の中で最も急激に環境の悪化が考えられる所だと思います。ホームレスの小屋の増大などがその原因ですが、それはさておき、1つの提案をしたいと思います。左岸、河口、東急ホテル跡地近くの0キロの場所の整備をし、多摩川のはじまり0キロをスタート地点とし、大師橋を渡り、右岸0キロ(運河手前ですが…)までのコースを作っていただきたいと考えます。景観法にある、景観や保存の意義が十分に考えられるコースを整備し、作ってもらいたいと考えます。

■ その他

ご縁があって、このセミナーに初めて参加参加しました。行政が市民の理解を得るために斯様な企画をされていることに大きな意義を感じてました。また、多くの市民の方々が参加されていることにも、その関心の高さと共に、行政の活動の成果とみえます。今後もこの活動のさらなる注力に期待します。次に、この様な企画に、若い人に参加してもらう方法を考えられては如何でしょうか？小・中・高などの学校で易しく説明することも大切のように思います。

■ 質問

野川の湧水と川の水量・水質を守るためには、市民の皆様、行政はそれぞれどのような活動や施策を進めていけばよろしいでしょうか？

多摩川に大勢いらっしゃるホームレスのブルーシートが見苦しいとよく指摘されます。ホームレスをなかなか排除できない現状では、見え方がよくなる工夫は何かありませんでしょうか？(例:ブルーシートではなくグレーシートにするとか)

■ 川崎市に意見

多摩川沿いのホームレス対策を真剣に実行して欲しい。

■ 質問

多摩川八景の(2)に多摩川台公園があります。私は対岸の川崎市中原区に40年以上住んでいますが、当時の情景と現在の情景が周囲の樹木によって八景らしくないので、少し木を切って現景の復起をしてはどうですか？秋口には葉が落ちますが、春、夏と訪れる人々には残念な景色となりますのでどうか手を打ってください。夕日は景色がよくとってもよいところですよ。

■ 質問

多摩川の様々な写真を見せていただきありがとうございました。多摩川に川霧があがっているのは、とても興味を持ちました。さて、多摩川八景の一つ、多摩川台公園から秩父丹沢山景や富士山を眺められる写真がありましたら、見せて頂けると有り難いです。空が澄んでいないと遠くを眺められないので、その場所に行っても見たことがありません。よろしく願います。「櫻の多摩川」という歌に、その風景が歌われています。

■ 質問と意見

・水位の名称

(1) 4段階になっている「堤防が安全」を前提にした名称を考えてよいか？

(2) 実際の「堤防の安全性」に関する情報を提供して、それに基づく説明会・現地見学会を持ってほしい。

・川崎市多摩川プラン

(1) 多摩川を水道水源として位置づけていないのか。

(2) その理由は？

(3) 川崎市にとっての身近な水道水源として、地下水と多摩川を位置づけて欲しい。

・フォローアップ全体

(1) 整備計画の目標として、泳ぐことのできる多摩川、鮎がすむ多摩川、水道水源として使える多摩川を追加されたい。

(2) 上記に関連して、京浜河川事務所が砵浄水場取水能力アップにイエスを出さない理由を示して欲しい。

(3) 河川法の枠を超える課題にはどのように対応する考えなのかを追加されたい

■ 質問と提案

区間4のテーマの事例の中で皆さんの意見を取り入れて景観をよくしていく場合、例を示して希望する景観の姿を示して頂ければと思います。(テーマ(1)でもよろしいので)

■ 提案

ポスターセッションで川崎市多摩川プランの発表がありました。多摩川流域の他の市のプランの発表も追ってやっていくといいと思いますが、お考えを発表下さいませんか。

■ 質問

狛江に玉川碑があるのですが、これはなぜ50景に入れないのですか？

■ 提案

・多摩川の景観というと、上流の渓谷美を中心とする奥多摩にスポットライトが当たりがちですが、中流域、下流域の多摩川の魅力づくりというものにこれからはもっと力を入れていく必要があると思う。

・それには何よりも水量、水流の確保が大事になる。豊かな水の流れが豊かな景観をつくりあげる。

・入ってくる水(水源地域の雨水・雪解け水・湧水等)と出ていく水(用水・ダム・飲料用水・農業用水・工業用水等)との相関関係、バランスが大事。

■ 質問

景観形成の考え方に多摩川流域の生き物たち(植物、魚等)を入れる必要があるのではないか?特に、河川敷については、グランド利用等の抑制の方針と本来の河川敷風景の再生(ヨシ原)が必要と思われる。いかがですか？

ポスター・セッション

今回は河川整備計画の中から3つのテーマと、川崎市で策定した計画を特集しました。

各テーマについて、概要を紹介したあと、個々のテーマに分かれてさらに詳細な説明と質疑応答が行われました。



以下のリンクより、セッションに使われたポスターをPDF形式にてご覧いただけます。

景観 ～多摩川八景について～

「多摩川八景」が定められた目的や策定までの流れについて。

- 多摩川八景今昔
各八景の概略と、昭和と平成の写真。

防災 ～減災に向けた取り組みについて～

ハザードマップや防災施設、洪水時の水位や防災情報の取得方法など。

水流 ～水流実態解明プロジェクトについて～

多摩川流域の水循環を調査する、水流実態解明プロジェクトについて。

川崎市多摩川プラン

川崎市が策定した、魅力的で豊かな多摩川を持続的に育ていけるしくみづくりを目指した計画です。整備計画と整合を図りながら推進していきます。

第25回多摩川流域セミナー ポスターセッションでのQ&A

当日、ポスターセッションでいただいたご質問と回答です。

1. 多摩川八景について

Q. 多摩川の河口はどこですか？目印はありますか？

A. 「河口からの距離0.0k」の杭（鋌）が打ってある場所で、スカイウォークの写真でも確認できます。（昔はここが河口であったが、埋め立てられて伸びたため、その分はマイナス表記として管理区間に入れています。）

Q. なぜ、今回多摩川八景を取り上げているのですか？（八景を見直すのですか・・・？）

A. 八景が選定されてから20年以上（1984～）が経過しています。昨今景観法（景観緑三法）がH17に施行され、世の中の景観に関する動向が見受けられます。そこで、多摩川の景観を再認識する時期であると考え、今回取り上げました。

Q. 多摩川台公園からの眺めを改善するために、枝を切る等の措置はできないのでしょうか？

A. 木々を保全したい方々もおり、一概に、八景の保全のためだけに剪定するという判断は難しいです。今後、景観に関する要望があることを踏まえ、公園管理者と協議していきたいと考えます。

2. 減災に向けた取り組み

Q. 多摩川で河川を整備するための高水流量はいくつですか？

A. 多摩川水系河川整備計画においては、戦後最大規模の高水流量4,500m³/sを安全に流すことを目標として定めています。

Q. 近年、日本各地で100ミリを超える降雨が発生しているが、多摩川の高水流量はいつ決めたのでしょうか？また、戦後最大規模が変われば変えるのでしょうか？

A. 多摩川では平成13年に多摩川水系河川整備計画を定めています。この計画において戦後最大規模の洪水を安全に流すことを目標としており、今後、戦後最大規模を超える洪水が発生した場合は、必要に応じて見直しの検討を行います。（戦後最大流量が今現在も最大であり、もし、今後最大を上回ることがあった場合には、検討致します。）

Q. このパネルで示しているハザードマップは地震も対象としていますか？

A. この洪水ハザードマップは洪水のみを対象としています。自治体によっては、表面に洪水ハザードマップ、裏面に防災マップを掲載して作成している自治体もあります。洪水のほかには内水、高潮、津波、土砂災害、火山のハザードマップがあります。

Q. 洪水時の各種水位は、堤防が決壊しないことを前提に設定しているのですか？

A. ご承知のとおり、あくまでも高さでの評価となっておりますので、はん濫危険水位に達する前に堤防が決壊する可能性もあります。

Q. 洪水ハザードマップの浸水エリアはどうやって決まっているのですか？

A. 多摩川においては200年に1回発生する可能性のある大雨が降ったことにより、はん濫した場合の最大の浸水エリアを表示しています。

Q. 大田区には、ハザードマップはないのですか？

A. 平成19年度策定予定と聞いています。

《その他》

- 先日、堤防の質的評価の結果が公表されたが、堤防が決壊する確率はいくつなのか？TBネットにおいて勉強会をしたい。
- 多摩川流域委員会の委員をしているが、大田区は河川敷道路の整備が進んでいない。今後、話しを聞かせて欲しい。

3. 水流実態解明プロジェクトについて

Q. 水収支モデルはどこで作ったのですか？

A. 京浜河川事務所でモデルを作成しております。

Q. キャラバンは公募をしておこなったのでしょうか？

A. 一般に公募して、募集しました。今後も実施したいと思っております。

Q. 雨水浸透ますは国土交通省が設置するのですか？

A. 自治体を中心となって行っています。

Q. 「多摩川プラン」にも水量・水質の施策があるが、川崎市と京浜河川事務所の関係は？

A. 意見交換を実施しています。

Q. 魚道に水が流れない時がありますが・・・

A. 水量を確保することは難しいため、今後、確保するために水の流れや水量について研究を行っていきます。

Q. 水の収支はわかっていないのでしょうか？

A. 現時点では、わかっておりません。

Q. アユの遡上数は増えているというが、えさとなるアオモが少ない。水質について検討しているのでしょうか？

A. 水質については検討しています。しかしながら、植物の生態まで検討していないのが事実です。

Q. アオモが少ないのは、砂利についた藻が原因ではないでしょうか？川の再生がなっていない

A. 直接の原因については、わかっておりません。藻については、出水の経験や日常の流速にもよると思われます。

《その他》

- すばらしい取り組みをしているというご意見もあり。

4. 川崎市多摩川プランについて

Q. 多摩川プランが出来たことによって、予算上の違いは？（予算上の重点）

A. 今年度の目玉として、幸区船着場眺望公園の整備や大師河原水防センターの平常時の運営を行っていきます。

《その他》

- 緑地の維持管理の水準が向上した。
- 国道409号線から多摩川へのルートがない。
- 多摩川プランの進行状況をホームページで知りたい。